

入試に関する Q & A

出願・受験について

Q 募集要項の入手方法を教えてください。

A 出願手続ハンドブック2021(募集要項)は8月上旬より配布する予定です。
入手方法については48ページに詳しく記載しています。また、すべての入試が「インターネット出願」です。
詳しくは49ページを参照してください。

Q 入学検定料の支払はどのようにすればよいですか？

A 金融機関ATM(ペイジー)、ネットバンキング(ペイジー)、コンビニエンスストア、クレジットカードでのお支払いが可能です。

Q 地方入試は実施しますか？

A 実施します。自己推薦入学試験A日程【小論文型】・B日程【基礎学力型】・C日程【基礎学力型】と一般選抜A日程・A日程【小論文型】・B日程で実施します。今年度は、東京・愛知・滋賀・香川・岡山・福岡の6会場で実施します。各会場によって日程が異なりますので、詳細については各試験のページをご覧ください。

Q 出願後に学部学科などを変更することができますか？

A 出願後に学部学科、試験地などの変更はできません。出願にあたっては、入力内容に間違いや入力漏れなどが無いかを十分に確認するようにしてください。

Q 自己推薦入試では、出願資格に評定平均値の基準などはありますか？

A 自己推薦入学試験では、出願資格での評定平均値の基準や制限は設けていません。
ただし、自己推薦入学試験A日程【小論文型】、B日程・C日程・D日程の試験においては、調査書の全体の評定平均値を点数化しています。
具体的な選考方法は、下記の2種類の採点方法から、いずれか高得点のほうを判定に使用します。
①調査書全体の評定平均値の10倍(配点50点)+選考試験の点数(配点100点)の合計点【150点満点】
②選考試験の点数(配点100点)×1.5【150点満点】
また、自己推薦入学試験A日程【総合評価型】、一般選抜A日程【総合評価型】では評定平均値と得意教科評定を点数化しています。
自己推薦入学試験A日程【総合評価型】については4ページ、一般選抜A日程【総合評価型】については14ページをご覧ください。

Q 併願と併願受験料について教えてください。

A 46ページを参照してください。

Q 自宅にパソコンが無く、インターネット出願ができない場合、どうすればいいですか？

A インターネット出願はスマートフォンにも対応しています。また、在籍する学校のパソコンを借りることができないか確認してみてください。どうしても無理な場合は、個別に対応しますので入試課までご相談ください。

Q 自己推薦入試B日程・C日程・D日程の基礎学力試験とはどのような試験ですか？

A 基礎学力試験の選抜方法と評価のポイントについて説明します。

【基礎学力試験(国語)】

「国語」という名前がついていますが、中学校や高等学校で習っている国語とは少し違います。この試験では、論理的な文章(評論など)の読解や日本語表現力(ことわざや熟語など)に関する問題、公務員試験などで出題される「文章理解」や「数的処理(数的推理)」などが出題されます。高等学校までの教科書の復習に加えて、公務員試験の一般職試験(高卒者試験)・地方初級の問題集に取り組みれば力がつくでしょう。

【基礎学力試験(英語)】

この試験では、読解・文法・作文の3分野が出題の中心となりますが、いずれも一般選抜に比べて基礎的な内容となっています。高等学校までの学習内容を復習すると同時に、日頃からまとまった文章を読み、その内容や話の流れを正確にとらえる練習をし、基本的な文法事項や語法を確認しておきましょう。また、いかにケアレスミス無くし、より確実に得点するかという点も非常に大切になってきます。

【基礎学力試験(日本史)】

この試験では、一般選抜と同様に、全時代にわたって、正解となる歴史用語や説明文を選択する問題が出題されますが、いずれも一般選抜に比べて基礎的な内容を問う問題となっています。

また、一般選抜とは異なる点として、問題文に「史料」を引用して、その内容を問う「史料問題」は出題されないことがあります。

試験対策としては、日本史教科書や日本史用語集などを使用して、全時代にわたる基礎的な知識を身に付けることが基本となります。

日本史の基礎的な事項について、それらは、①具体的に、どのようになっていたのか、②なぜ、そのようになったのか、③どのような影響を与えたのか、どのような歴史的な意味があったのか、といったことを常に意識しながら勉強するようにしてください。

Q 障害がある場合の受験についておたずねします。

A 障害がある方の受験については、車椅子受験・別室受験・試験時間延長・点字受験ならびに解答・補助具の使用許可や座席指定など、それぞれの方の障害の程度に応じた措置をとっています。個別相談時に具体的に入試配慮内容を検討し、受験生が十分に力を発揮できる方法を考えたいと思っています。相談は、推薦入学試験の場合は9月の初旬、一般選抜では12月中旬までに実施しています。なお、受験決定後出願書類発送時には必ず「入試配慮願」を同封してください。作成要領(見本)については、相談時にお渡ししますので参考にしてください。試験当日、急に配慮を申し出ても対応できない場合がありますので、必ず事前に入試課までご相談ください。

社会人・編入学試験について

Q 社会人入学試験について教えてください。

A 「特に花園大学で勉強してみたい」という強い意欲を持っている社会人の方々に、各学部学科に若干名の枠を設けて実施している制度です。これまでに社会人入試で入学した学生が、大学全体に様々な刺激を与えてきました。選考方法として前期・後期日程と2回の受験機会があり、全学部全学科テーマ作文・面接にて実施します。受験される方は今までの経験をいかし、「生き方」を表現してください。

Q 編入学試験について教えてください。

A 編入学試験は前期・後期2回の試験日程を準備しています。両日程ともに小論文は課題文提示形式で、それをもとに読解力(問題発見の独創性・出題意図の的確な把握)および「思考力・判断力・表現力」を問うもので、大学生としての資質をはかる目的を持っています。課題文の内容は全学部全学科共通で作成されているため、専門内容で出題されることはありません。面接においては、学部学科への志望理由や目的意識について明確にアピールしてください。各学科の演習(ゼミ)担当者が面接しますので専門の内容に及ぶこともあります。合否判定では小論文が高得点でも、明確な志望理由や学部学科への適応性に欠けると判断された場合は不合格になることもあります。編入学出願資格を満たし、25歳以上の社会経験者を対象とした社会人編入学試験も実施しています。社会経験で培われた志望理由・目的意識をテーマ作文・面接にいかすことができます。

Q 編入学年と資格取得について教えてください。

A 編入学年は3年生となります。出身学校での既取得単位を編入時単位として一部認定していますが、その結果次第では2年間で卒業できないこともあります。また、資格取得を希望の方でも時間割編成等諸条件で、卒業と同時に2年間で資格に必要な単位を修得することができない場合があります。公認心理師受験資格課程については、最短で3年の在籍が必要となります。また、演習・実習の履修定員を15名と定めているため、必ず課程を修了できるとは限りません。

追加合格について

一般選抜C日程・大学入学共通テスト利用方式(後期日程)の入学手続締切後に、入学定員を満たしていない学科において追加合格を発表することがあります。対象は一般選抜C日程の一定基準を満たす不合格者の中から高得点の順に合格とします。また、状況に応じて一般選抜A・B日程の中から合格者を出す場合もあります。

大学院入試も同様に追加合格を発表することがあります。

追加合格の連絡は、出願登録の際に登録された電話番号に入試課から連絡します。連絡が取れない場合は次位の方へ連絡する場合があります。

なお、追加合格者の学納金および入学後における扱いは、正規の合格者と何ら変わることはありません。

※追加合格に関するお問い合わせには一切応じられませんので、あらかじめご了承ください。